

## 内傷 Internal injury

村崎 可奈子 MURASAKI Kanako

02月17日(水)ー02月27日(土)  
OPEN pm1-7 水・木・金・土曜(日・月・火曜休廊)



「16歳」 2020 ミクストメディア

村崎  
可奈子

MURASAKI Kanako

1997 富山県生まれ  
2021 嵐峨美術大学造形学科油画領域 在籍中

2020 グループ展「メディウム・リバイバルII」SUNABAギャラリー/大阪  
2018 グループ展「アイマミエル」嵯峨美術大学学内/京都



視覚優位な現代に疑問を抱き、触れることが主とした制作を始めた。しかし2020年新型コロナウイルスの感染拡大により、接触とは憚られるものとなった。見たくても見られない、触りたくても触れない、そんなもどかしさがある。

私達は自身の体の中身を自力で見ることはできない。たとえ臓器が痛んでいたとしても、視認することはできず、痛覚のない臓器では痛みを感じることもできない。そしていつの間にか限界が来る。そんな静かなる命のリミットを可視化することで、私は「生命」と向き合っていきたい。

## | 展示作品 |

インスタレーション(空間サイズ 横2400×奥行1800×高さ2500mm)  
素材／寒冷紗、シリコンチューブ、グリセリンソープ、金魚鉢

+2ギャラリーでは、+1artでの企画展とリンクしながら、新進の若手作家による展覧会を開催しています。実験的な試みの発表の場として、ホワイトキューブではない小空間を活用した企画を行っています。  
+1とあわせてご高覧いただけますようご案内申し上げます。

村崎加奈子の作品は痛みを伴っている。痛みは苦痛であるが、生きている証でもある。傷みは本人しか実感することができない。それは実在するが、他者には見ることも感じることもできない。その痛みを彼女は直視する。本展では、体内の臓器?をイメージしたインスタレーションで、伝えることができない痛みの表現を試みる。そうすることで、このコロナ禍の時代に、生命の愛おしさを彼女は伝えようとしているのだろう。

+1art カワラギ